



## CTI ルート ポイントの設定

Computer Telephony Integration (CTI) ルート ポイントでは、仮想デバイスを指定します。この仮想デバイスは、アプリケーションが宛先変更を制御している多重同時コールを受信することができます。

ファーストパーティコールを制御するために、アクティブな音声回線ごとに CTI ポートをオプションで追加できます (CTI アプリケーションがこれを決定します)。CTI ルート ポイントおよび CTI ポートを使用するアプリケーションには、Cisco IP SoftPhone、Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant、および Cisco IP Interactive Voice Response System があります。Cisco Unified Communications Manager の管理ページに CTI ルート ポイントを追加した後、RIS Data Collector サービスからの情報が、[CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウ内に表示されます。デバイスの IP アドレス、およびデバイスが登録されている Cisco Unified Communications Manager の名前が利用可能であれば、表示されます。



(注)

回線グループまたはハントリストのメンバーである Directory Number (DN; 電話番号) に CTI ルートポイントを関連付けることはできません。DN が回線グループまたはハントリストのメンバーである場合、[CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウで設定した CTI ルートポイントにその DN を関連付けることはできません。

これらのアプリケーションに関連した CTI ルート ポイントおよび CTI ポートの設定方法については、各アプリケーションに付属の資料とオンライン ヘルプを参照してください。

この項では、次のトピックについて説明します。

- 「CTI ルート ポイントの設定値」 (P.64-1)
- 「CTI ルート ポイントの同期化」 (P.64-7)
- 「関連項目」 (P.64-8)

## CTI ルート ポイントの設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、[デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] メニュー パスを使用して、CTI ルートポイントを設定します。

Computer Telephony Integration (CTI) ルート ポイントでは、仮想デバイスを指定します。この仮想デバイスは、アプリケーションが宛先変更を制御している多重同時コールを受信することができます。

ファーストパーティコールを制御するために、アクティブな音声回線ごとに CTI ポートをオプションで追加できます (CTI アプリケーションがこれを決定します)。CTI ルート ポイントおよび CTI ポートを使用するアプリケーションには、Cisco IP SoftPhone、Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant、および Cisco IP Interactive Voice Response System があります。Cisco Unified Communications Manager の管理ページに CTI ルート ポイントを追加した後、RIS Data Collector サービス

ビスからの情報が、[CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウ内に表示されます。デバイスの IP アドレス、およびデバイスが登録されている Cisco Unified Communications Manager の名前が利用可能であれば、表示されます。



(注)

回線グループまたはハント リストのメンバーである電話番号 (DN) に CTI ルート ポイントを関連付けることはできません。DN が回線グループまたはハント リストのメンバーである場合、[CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウで設定した CTI ルート ポイントにその DN を関連付けることはできません。

これらのアプリケーションに関連した CTI ルート ポイントおよび CTI ポートの設定方法については、各アプリケーションに付属の資料とオンライン ヘルプを参照してください。

### CTI ルート ポイントの設定のヒント

Cisco Unified Communications Manager の管理ページに CTI ルート ポイントを追加した後、RIS Data Collector サービスからの情報が、[CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウ内に表示されます。デバイスの IP アドレス、およびデバイスが登録されている Cisco Unified Communications Manager の名前が利用可能であれば、表示されます。

電話番号の追加と設定の方法については、「[電話番号の設定値](#)」(P.43-1) を参照してください。

CTI ルート ポイントをリセットする方法については、「[共通ボタンおよびアイコン](#)」(P.1-19) の [選択項目のリセット (Reset Selected)] ボタンおよび [リセット (Reset)] ボタンの説明を参照してください。

次のトピックも参照できます。

- 「[CTI ルート ポイントの同期化](#)」(P.64-7)

### CTI ルート ポイントの削除のヒント

1 つまたは複数の電話番号に関連付けられた CTI ルート ポイントを削除できるため、CTI ルート ポイントを使用している電話番号を特定する必要があります。CTI ルート ポイントを使用している電話番号を特定するには、[CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] リンクを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。使用中の CTI ルート ポイントを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。

割り当てられている電話番号を持つ CTI ルート ポイントを削除する場合、ルート プラン レポートを使用して電話番号を検索できます。ルート プラン レポートを使用して電話番号を削除することもできます。

### GUI の使用方法

Cisco Unified Communications Manager の管理の Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザ インターフェイス) を使用してレコードを検索、削除、設定、またはコピーする方法については、「[Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作](#)」(P.1-13) およびそのサブセクションを参照してください。GUI の使用方法とボタンおよびアイコンの機能の詳細が説明されています。

## 設定値表

表 64-1 では、CTI ルート ポイントの設定値について説明します。関連する手順の詳細については、「関連項目」(P.64-8) を参照してください。

表 64-1 CTI ルート ポイントの設定値

フィールド	説明
[デバイス名 (Device Name)]	このデバイスに固有の識別子を、1 ~ 15 文字 (英数字、ドット、ダッシュ、またはアンダースコアを含む) で入力します。
[説明 (Description)]	CTI ルート ポイントの内容を表す名前を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	デバイス プールの名前を選択します。デバイス プールは、自動登録用の Cisco Unified Communications Manager グループ、日時グループ、地域、およびコーリング サーチ スペースを含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	この CTI ルート ポイントを割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスまたは機能) が含まれています。共通デバイス設定は、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定します。詳細については、「共通デバイス設定」(P.77-1) を参照してください。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、コーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p> <p><b>Max List Box Items</b> エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。<b>Max List Box Items</b> エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのコーリング サーチ スペースが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリング サーチ スペース名を検索し、選択します (「コーリング サーチ スペースの設定値」(P.41-1) を参照)。</p> <p><b>(注)</b> リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] &gt; [エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>

表 64-1 CTI ルート ポイントの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ロケーション (Location)]	<p>ロケーションは、Call Admission Control (CAC; コール アドミッション制御) を中央集中型 コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオのアベイラビリティを調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、この CTI ルート ポイントに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、この CTI ルート ポイントが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] &gt; [ロケーション (Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「<a href="#">ロケーションの設定 (P.15-1)</a>」を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『<i>Cisco Unified Communications Manager システム ガイド</i>』の「<a href="#">クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコール アドミッション制御</a>」を参照してください。</p>
[ユーザロケール (User Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、その CTI ルート ポイントに関連したロケールを選択します。そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、ローカリゼーションをサポートする CTI ルート ポイントに対してだけ、このフィールドを使用可能にします。</p> <p><b>(注)</b> ユーザ ロケールが指定されない場合、Cisco Unified Communications Manager はデバイス プールに関連付けられているユーザ ロケールを使用します。</p> <p><b>(注)</b> 英語以外の言語で情報を (電話機に) 表示することをユーザが要求している場合は、ユーザ ロケールを設定する前に、ロケール インストーラがインストールされていることを確認します。『<i>Cisco Unified Communications Manager Operating System Administration Guide</i>』の Cisco Unified Communications Manager ロケール インストーラについての説明を参照してください。</p>
[メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List)]	<p>適切なメディア リソース グループ リストを選択します。メディア リソース グループ リストは、優先順位順に並べられたメディア リソース グループから構成されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソース、たとえば、保留音サーバを選択します。</p> <p>[&lt;なし (none)&gt;] を選択すると、Cisco Unified Communications Manager は、デバイス プールに定義されているメディア リソース グループを使用します。</p> <p>詳細については、『<i>Cisco Unified Communications Manager システム ガイド</i>』の「<a href="#">メディア リソースの管理</a>」を参照してください。</p>

表 64-1 CTI ルート ポイントの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	<p>ネットワークが保留動作を開始するときに再生されるオーディオ ソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオ ソースを選択します。</p> <p>オーディオ ソースを選択しない場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイス プールに定義されているオーディオ ソースを使用します。または、デバイス プールがオーディオ ソース ID を指定していない場合は、システム デフォルトを使用します。</p> <p>オーディオ ソースの定義は、[保留音オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスするには、[メディアリソース (Media Resources)] &gt; [保留音オーディオソース (Music On Hold Audio Source)] の順に選択してください。</p>
[ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	<p>アプリケーションが保留操作を開始するときに再生されるオーディオ ソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオ ソースを選択します。</p> <p>オーディオ ソースを選択しない場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイス プールに定義されているオーディオ ソースを使用します。または、デバイス プールがオーディオ ソース ID を指定していない場合は、システム デフォルトを使用します。</p> <p>オーディオ ソースの定義は、[保留音オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスするには、[メディアリソース (Media Resources)] &gt; [保留音オーディオソース (Music On Hold Audio Source)] の順に選択してください。</p>

表 64-1 CTI ルート ポイントの設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウンリスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレー ポイント) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。</li> <li>• [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。</li> <li>• [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。</li> </ul> <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク仮想化および信頼できるリレーポイントの詳細な説明については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレー ポイント」の項、およびそのサブトピックを参照してください。</p>
[発呼側トランスフォーメーションCSS(Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズできます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p><b>ヒント</b> コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーションCSS(Calling Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p>

表 64-1 CTI ルート ポイントの設定値 (続き)

フィールド	説明
[位置情報(Geolocation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、<i>未指定</i>の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム(System)] &gt; [位置情報の設定(Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報の説明については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報について」および「位置情報の設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報の使用方法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーションCSSを使用(Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、[CTI ルートポイントの設定(CTI Route Point Configuration)] ウィンドウで設定した発呼側トランスフォーメーション CSS が使用されます。</p>

**追加情報**

「関連項目」(P.64-8) を参照してください。

## CTI ルート ポイントの同期化

CTI ルート ポイントを最新の設定変更と同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます (たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります)。

**手順**

- ステップ 1** [デバイス(Device)] > [CTI ルートポイント(CTI Route Point)] の順に選択します。  
[CTI ルートポイントの検索と一覧表示(Find and List CTI Route Points)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索(Find)] をクリックします。  
検索条件に一致する CTI ルート ポイントがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 同期させる CTI ルート ポイントの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内の CTI ルート ポイントをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [選択項目への設定の適用(Apply Config to Selected)] をクリックします。  
[設定情報の適用(Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 6** [OK] をクリックします。

**追加情報**

「関連項目」(P.64-8) を参照してください。

## 関連項目

- 「CTI ルートポイントの設定」(P.64-1)
- 「CTI ルートポイントの設定値」(P.64-1)
- 「CTI ルートポイントの同期化」(P.64-7)
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「コンピュータテレフォニー統合」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「信頼済みリレーポイント」